

広告料の詳細は

行橋千春委員 PR広告料の詳細は。

地方創生課長 京成電鉄の中吊り広告や駅貼りの広告、JRバスあるいは千葉交通の高速バスのラッピング広告を出しました。また、シネアドに15秒のPR動画を流したり、東京駅のデジタルサイネージ、スタジオアルタの街頭ビジョン広告等を実施しました。

※シネアド：「シネマ・アドバイジン」の略。映画館で作品の本編が始まる前に上映される広告。

※デジタルサイネージ：屋外、店頭、公共空間、交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアの総称。

コロナ禍での対応は

石渡悦子委員 コロナ禍による簡易マザースホームでの対応、状況は。

保健福祉課長 11名の方が通所されており、感染対策として3、4名でグループ分けをして、通所する曜日を限定させていただき、密にならない対応を図っています。

検診抑制の状況は

石渡悦子委員 コロナ禍の影響でどの程度検診が抑制されたのか。

保健福祉課長 各がん検診すべてが前

多古高校への思いは

石渡悦子委員 多古高校に振興費助成として、支出している150万円に対する町の考えは。

町長 多古高校は町の宝であり、今後でも存続していただかなくては困るというような思いや、より魅力的な学校に、子供たちに選ばれる学校になるために使っていただきたいという思いです。

学校給食センター事業会計

滞納分の取り扱いは

石渡悦子委員 本町は給食費無償化から何年か経つが、収入未済として残っている120万4千円余を時効とする考えは。

学校給食センター所長 関係課と調整をして、今後債権管理の条例や事務取扱要綱の整備を行っていきたくて考えています。

国民健康保険事業会計

受診控えの影響は

石渡悦子委員 コロナ禍による受診控えの影響はどう受け止めているのか。

年度の実績を下回っており、胃がん、大腸がん、肺がん検診が2〜5%余の減、乳がん、子宮がん検診が30%余の減となっています。

有害鳥獣捕獲実績は

佐藤幸三委員 捕獲の実回数とその成果は。

産業経済課長 5月に4日間、9月に4日間実施し、カラス119羽、ドバト4羽、キジ13羽、タヌキ21頭、ハクビシン5頭、イノシシ3頭を捕獲しました。



作物を守るために

不法投棄防止への取り組みは

菅澤博隆委員 不法投棄の件数、場所、具体的な防止策は。

住民課長 レセプトの件数は前年度より2000件程少なくなっています。コロナ禍による受診控えが要因であると思われる。町では特定健診や人間ドック等、皆さんにアピールをしています。

※レセプト：患者が受けた保険診療を医療機関が保険者に請求する医療報酬の明細書。

農業集落排水事業会計

災害による停電時の対策は

勝又一徳委員 令和元年の台風被害を受けて、上下水道には発電機を整備したとのことだが、農業集落排水施設への対応はされたのか。

生活環境課長 十余三の真空ステーションに設置している発電機はオーバーホールし、試運転、点検等を欠かさず行っています。島、牛尾、船越、林地区は発電機がまだ設置されていない状況であるため、今後の課題であるが、万が一の場合は役場に設置している可搬式の発電機を運んで稼働することを考えています。

生活環境課長

町の方で支出を伴ったものは3件で、林地区、高津原地区、出沼地区となっています。対策としては、一度不法投棄があった場所は再度見回るなど、各地区の区長さんや役員さん、他の課とも連携しながらパトロールを実施しています。

南玉造線の進捗は

飯田良一委員 南玉造線道路改良事業の内容、現在の進捗率は。

都市整備課長 内容は、歩車道境界ブロック、舗装に関しては2層仕上げの1層目が完了しています。現在の進捗状況は令和2年度末で60%です。

飯土井橋の今後は

菅澤博隆委員 飯土井橋の歩道工事が止まっているが、今後の完成に向けたスケジュールは。

都市整備課長 現在、橋りょうの修正設計を成田土木事務所が行っており、令和5年度末には工事を進めていくと伺っています。

GIGAスクール構想の現況は

橋本孝之委員 小中学校で4月から生徒にタブレットが配布されているが、どのように活用されているか。
学校教育課長 タイピング練習、図形やデザイン画を描いたり、プログラミングの練習などを行っています。

介護保険事業会計

積極的な周知を

石渡悦子委員 障害者手帳がなくても、要介護4、5の認定を受けた方は特別障害者手当を受け取れる可能性があります。積極的な周知に取り組んでいただきたい。

保健福祉課長 今までの実績はすべて重度の手帳保持者ということでありましたが、町民の方には手帳取得がなくても要件が整えば手当を受けることができるということを広く周知していきたいと考えています。

多古中央病院事業会計

黒字要因は

土井清司委員 平成25年から赤字が続いていたが、今回黒字となった主な要因は。

病院事務長 新型コロナウイルス感染症から町民、地域の皆様を守るため、専用病床の確保や発熱外来の開設、PCR検査等、体制の整備などを実施したことに対し、国や県からの補助金と併せて、コロナ対策への理解、地域医療を守る意思によって得られた一般会計からの繰入金による大幅な増収が黒字の大き

森林環境譲与税の有効利用を

鵜澤茂委員 森林環境譲与税の使い道は。

産業経済課長 森林を面的にシステムで把握する森林クラウド使用料、それ以外の部分は森林環境整備基金をつくり、積立を行いました。

※森林クラウド：都道府県、市町村、森林組合等で管理していた森林情報をクラウド上で一元的に管理するシステム。

廃プラ処理料の推移は

菅澤博隆委員 処理料が値上がりしたが、取扱量の推移は。

産業経済課長 令和元年のトータル排出量は151・37トン、令和2年は168・92トンとなっており、処理料が上がっても排出量としては増えている状況です。



排出量が増加している廃プラ

水道事業会計

施設劣化に対する計画は

菅澤博隆委員 施設の劣化が進み、リニューアルが必要となった場合に備えて積み立てが必要ではないか。

生活環境課長 既に老朽化しているものは修繕、交換をして現在運用している状況です。リニューアルには多額の費用がかかり、料金を上げるなどの財源問題にもなってくるため、まずは料金の未納を少なくするなど、しっかりと徴収を図っていきます。

多古水の今後は

佐藤利治委員 多古水の今後の課題は。
生活環境課長 多く利用していただいた成田空港がコロナ禍により大幅な消費減となったため、今後もさらなる販路拡大に努めるとともに、すぐにできるものとして、ラベルにQRコードを入れるなど、直近でやってみたくて考えています。

